

国立大学法人小樽商科大学長の業績確認結果について

令和2年1月16日

学長選考会議

国立大学法人小樽商科大学学長選考規程第17条の2に規定する学長の業績確認を実施しましたので、その結果を公表します。

記

1. 対象期間

平成30年度

2. 確認方法等

国立大学法人小樽商科大学学長の業績確認に関する細則に基づき、以下のとおり学長の業績を確認しました。

<対象> ①監事による業務監査・会計監査の結果
②学長候補者として表明した所信の達成状況
③国立大学法人評価委員会が公表する年度評価

<確認資料> ①監事監査結果報告書
②学長候補者として表明した所信
③国立大学法人評価委員会からの業務の実績に関する評価結果
④平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書

<確認方法> ①業績確認資料による書面審査
②監事へのヒアリング
③学長へのヒアリング
④学長選考会議による審議

3. 確認結果

小樽商科大学は第3期中期目標期間における戦略性が高い目標・計画として、「グローバル人材育成のための新規教育課程の構築」、「産官学連携・大学連携に向けたプラットフォームの形成」ならびに「アクティブ・ラーニング拠点の構築」を掲げ、前半3年間、意欲的に取り組んできた。

新規教育課程とアクティブ・ラーニングを深化する取り組みとしては、「グローバルコース・主専攻プログラム」の準備、「ギャップイヤー・プログラム」の試行、ならびにデジタル教材の拡充が成果として注目される。これらはグローバル戦略推進センターへの専任教員の配置など、組織運営面における学長のリーダーシップによるところが大きい。

大学連携では帯広畜産大学、北見工業大学との3大学経営統合による新法人設立に向けて協力体制を確立し、令和4年度の開設に向けて連携事業の具体化に着手している。この取り組みについて

も北海道経済の活性化を視野に入れ、国立大学の経営改革を重視した学長の強いリーダーシップが発揮されていると思料される。

さらに財務面においても学術コンサルティング制度の創設による外部資金の新規獲得、全学的な研究マネジメント支援による外部資金の獲得増など、注目される成果を挙げている。

以上のように、学長のリーダーシップの下で、戦略的な取り組みを着実に進めており、第3期中期目標期間の後半3年間において「グローバル時代の地域マネジメント拠点としての社会的役割を果たし、北海道経済の発展に寄与するグローバル人材を育成する」という今期基本目標の実現が期待される。